

A 様式第 1 号 (第 2 条関係)

新居浜市 S D G s 推進プラットフォーム分科会活動計画書

分科会名称	「資源循環型の地域社会を実現する会」(以下、当分科会という)
分科会提案会員	株式会社めぐる 株式会社ヒロコウ 株式会社ニューパック住友 新居浜生涯学習センター にはまグローバルネットワーク
目 的	地球温暖化を防止し持続可能な地域社会をつくるためには、“廃棄物を資源”として考える資源循環の意識と行動が必要です。 当分科会では、プラスチックと食品の廃棄物を中心に発生の抑制とリサイクルの仕組みを検討し、多くの人の意識と行動につながる活動を推進したいと考えています。
解決すべき課題	<p>多くの目標に関連するのが SDG s の特徴ですが、当分科会が目指す「循環型地域社会の実現」の取り組みも新居浜市が掲げる「3 分野の地域課題」にそれぞれ関連しています。</p> <p>まず課題「環境」について、地球環境の保全や脱炭素社会の実現のためには資源循環型社会への移行が必要です。循環型社会によって温室効果ガスが最大 36%削減できると言われています。(環境省データ)</p> <p>課題「経済」については、当地域にプラスチック関連企業が多く存在することから、先進技術を活用してプラスチック資源の循環を進めることで、地域産業にとって新たな価値が生まれる可能性があります。 また食品関連企業から出る廃棄物を使って新たな商品や特産品の開発ができれば、環境と経済の二つの課題の解決が進みます。</p> <p>課題「社会」では、ESD (持続可能な社会のための教育) の中で循環型社会を考えることです。そして小中高校、生涯学習大学、公民館などでの“学び”を通して日常生活の中の資源循環の大切さを認識し、一人一人の“行動変容”につながる取り組みが必要です。 また地域の人と一緒に活動するで、地域コミュニティーの醸成になると考えられます。</p>
活動内容	<p>当分科会では上記の目的と課題解決のために、以下の三つの活動を計画しています。(資料 1)</p> <p>① プラスチックリサイクル研究会 (資料 2) 地域のプラスチック資源循環の実態、法令、ほかの先進地域の実例などを調査して、段階的に実現可能な仕組みを今年度中に提言してゆく予定です。</p> <p>活動と一緒に取り組んでもらえるプラスチック関連企業や異業種の企業・団体・学校など多くの会員の参加と協力を期待しています。</p>

次年度以降には、家庭からでるプラスチックごみについて発生抑制や分別などの意識を高める活動を検討しています。

(日常生活の行動を変えることで、プラスチックごみを30%削減できるという実証研究もあります。)

②食品ロス削減・再生利用（資料3）

食品廃棄物の削減は、SDGs 目標12に具体的に規定されていますが、ほかにも多くの目標に深く関連しています。

可燃ごみの3~4割を占める食品ロスを、燃やさず再生利用することで温室効果ガスを大幅に削減することが出来ます。

学校給食センターから出る食品ロスについては、全国の多くの給食センターや学校でESDの「食育+環境教育」として、発生抑制と再生利用（堆肥化など）を積極的に進めています。

当分科会が目指す食品ロス削減の活動として、今年度は「学校給食センターの食品ロス再生利用」に焦点を当て、実態や他の事例の調査を中心にして再生利用計画を提言したいと考えています。

公共施設からでる食品ロス再生利用の取り組みは、家庭や事業者に対して大きなインパクトになります。

食品関連の企業・団体、あるいは食品ロス削減に関心をお持ちの会員の参加をお待ちしています。

食品ロスの再生利用が増えてくれば、有機農業や農作物の地産地消にもつながり循環型地域社会の実現に向かって大きな前進になります。

③もったいないクラブ（仮称）の活動（資料4）

個人を対象にした「資源循環のための草の根運動」を計画しています。日常生活の中のもったいない体験や他の地域での取り組み事例などを話し合うことにより、意識の高揚と行動につなげる活動です。

今年度は、少人数の話し合いを数回開催する予定で、その中で行動に移す活動が出てくれば、来年度以降の継続や他の場所での開催を検討しようと考えています。

また具体的な活動が始まれば、活動を紹介する冊子を発行して活動の輪を広げて行きたいとも考えています。

地道な活動ですが、多くのプラットフォーム会員の参加とご協力をお願いします。

各セクターの中でも家庭の行動変容を促すことは難しいと言われています。

多くの人の行動変容のために、“出来ることを出来る人から始める” “一人の百歩より 百人の一步” をモットーに取り組むことを考えています。

<p>期待される成果</p>	<p>当分科会は「資源循環型地域社会の実現」という大きなテーマを掲げていますので、来年度以降も継続した取り組みが必要です。</p> <p>今年度（2024年3月）の各活動による成果（見込）は、次の通りです。</p> <p>① プラスチックリサイクル研究会 現状実態や先進他地域の事例などを中心に調査して、プラスチック資源循環の実現のため段階的なリサイクルの仕組みを提言。 （具体的な発生抑制やリサイクルの推進活動は次年度以降）</p> <p>② 食品ロス削減・再生利用 発生抑制と廃棄物削減のうち、今年度は廃棄物の削減、特に学校給食センターから出る食品ロスの再生利用を中心にして、実態や事例を中心に調査をして、食品ロスの焼却を削減するための方策を提言をする。 発生抑制やその他の食品ロス削減の活動については、③の活動も見て次年度以降に検討する。</p> <p>③ もったいないクラブ（仮称）の活動 家庭の資源循環を話し合う会（場）をつくることで、参加者個人の資源循環に対する意識高揚と行動変容につながると考えていますが、さらに参加者の中から一緒になった活動が始まることを期待しています。</p>
----------------	--

※必要に応じ、ページ数を増やしても差し支えありません。